

シンポジウム I

医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー
10周年記念シンポジウム
歯学教育におけるファシリテーションを考える

座 長
伊藤孝訓¹⁾

演 者
鈴木一吉²⁾ 藤崎和彦³⁾ 木尾哲朗⁴⁾

企画の意図

伊藤孝訓

平成17年12月に2006年度前期共用試験が正式実施され、OSCE課題の評価には行動科学に基づく教育能力の開発が求められた。これに伴い、対人コミュニケーション能力、ファシリテータの役割、模擬患者やロールプレイの活用、フィードバック評価等について研修の必要性が生じた。そこで日本歯科医学教育学会は、歯学領域で医療コミュニケーションの教育技法の普及・啓発やそれに関わる教員の教育能力の向上を図るために、第1回医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー(初級編)を、平成19年12月8・9日(2日間)、邦和セミナープラザ(名古屋)にて主催した。初回の参加者は26名で、特に医療面接教育に携わっている教育者が参加し、基礎的なコミュニケーション知識の学修から模擬患者の養成まで幅広い行動目標について、社会言語学や医学、歯学等の多方面から選出されたタスクにより執り行われ、本セミナーも回を重ねて今年で10年を迎えた。これまでは歯科医師として専門能力があれば、優れた教育者・指導者になれると思われていたが、歯科医師としての専門能力は必要条件ではあるが十分条件とは言えない。そのため、歯科医師という専門職能集団が自律的に能力を高めていくためには、教育力をしっかりと学び、歯学における卒前・卒後の人材育成システムを見直す必要がある。教育の知識と知恵をFaculty Development(FD)を通して、教育者は修得し実践力として応用でき

るようになることが重要である。

本セミナーは良質な教育に求められる教員の資質として、当初、コミュニケーション能力や情報伝達能力を中心に進められていたが、現在では学生の能動的学修を促す工夫や配慮を意識したセミナーへと変えて、歯学教育を担当する教員が参加しやすく、内容を初級編、中級編、新初級編、そして行動変容編へと変遷している。今回は、初めに、ファシリテータ養成セミナー10年を振り返り、次いで、歯学教育の基本的考えとなる行動主義と構成主義についての説明、そして、社会ニーズに合致する歯学教育プロフェッションについても説明をいただいた。本シンポジウムを通して、10年を迎えたファシリテータ養成セミナーが取り組んできた思いを理解いただいたと思われる。

歯科医学教育界においても、医学部と同様に「歯科医学教育」の専門家が必要になってきており、歯科医学全般を広い視野で俯瞰できるような教員は必要である。「医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー」は、今後も歯科医学に関わる教員の教育能力の向上をコンセプトとして、歯科界の教育体制の構築に努力するつもりである。

ファシリテータ養成セミナーを振り返る

鈴木一吉

医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナーは平成19年(2007年)に広島大学の小川哲次先生を中心として運営が始まった。その後、毎年1回開催し、昨年(2015年)第9回を開催した。全ての回は2日間の日程で行った。これまで「初級編」(第1~3回)、「中級編」(第4回)、「新初級編」(第5~8回)、「行動変容編」(第9回)と歯科医学教育のニーズを反映させ内容をアッ

¹⁾ 日本大学松戸歯学部歯科総合診療学講座

²⁾ 愛知学院大学歯学部歯内治療学講座

³⁾ 岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)

⁴⁾ 九州歯科大学総合診療学分野